

仮想ペア・データを利用した HIV/AIDS, 性感染症, 望まない妊娠の予防行動における性差の検討

徐 淑子*

Gender role expectation in preventive behaviors from HIV/AIDS/STDs and unwanted pregnancy :

A preliminary study using randomly matched male-female pair data

Sookja SUH

abstract

A questionnaire survey was employed to delineate gender difference in risk avoidance for HIV/AIDS/STDs and unwanted pregnancy in terms of gender role expectation. Students aged between 18-25 (n=1,073) were asked to answer their level of role expectation to their partner and role recognition for themselves regarding sexual health behavior, given a condition that subjects are supposed to respond in the case with imagined new sexual partner. 400 responses were randomly drawn respectively from male and female samples and matched into 400 paired data. The results are as follows ;

- 1) Female always marked higher both in role expectation rate and in role cognition rate for the listed sexual health behavior, which suggests female have more commitment for and give greater account to sexual health risk avoidance to maintain intimate relationship between partner and themselves.
- 2) Neither male or female didn't show gendered role expectation/recognition except "prepare condoms". This suggests that subjects generally hold a belief that sexual health risk avoidance should be practiced with equal participation of both sexes. However, this gender equal attitude has stratified to make double standards according to sex in regard with gender difference in strength of role demands.
- 3) "Prepare condoms" showed clear gendered role-compatibility in role expectation/recognition and implied an association with gendered division of role. In pair-wise analysis, expectation

*日本保健医療行動科学会奨励研究員

and recognition between virtual couples fit each other if the behavior is performed by male.

4) On the other hands, as a female role, "prepare condoms" doesn't show clear association with gendered division. It is implied that "prepare condoms" as a female role has been received with various attitudes in young generation's norm.

キーワード

性の健康 sexual health

性差 gender difference

役割期待 role expectation

コンドーム使用 condom use

相手のある保健行動 interpersonal health behavior

I 緒 言

性行為をもつことに関連した健康リスク (sexual health risk) には、性感染症に感染することから、性暴力による心身への影響、不本意性交による心理的問題まで様々なものが含まれる (Dixon-Mueller 1993)。本研究では、そのなかから、若い年齢層の重要な健康問題と考えられている HIV/AIDS を含む性感染症の予防、望まない妊娠の回避を取り上げ、18歳から25歳までの青年層を対象として質問紙調査を実施した。本論は、その結果より、性の健康リスクを回避する行動についての役割期待および役割認知という観点から、「相手のある保健行動」について試論するものである。

コールマン (1985) は、1970年代の日本の既婚夫婦の家族計画について調査し、避妊具（コンドーム）販売は購買者層を女性に定めた販路展開をしていることなどをあげ、夫婦のうち、コンドームを購入するのは主として妻であることを示唆する報告を行っている。島内 (1977) は夫婦の役割関係を家族の健康管理という観点から調査し、薬品の購入・常備は主として妻によって担われる「ケア役割」に入る行為と位置づけている。避妊具の用意の場合、家族計画は家庭領域での関心事であることや、避妊具入手にかかる実際的な手間ひまなどから、薬品の用意と同様、妻へと役割配分されていると考えることができよ

仮想ペア・データを利用したHIV/AIDS, 性感染症, 望まない妊娠の予防行動における性差の検討
う。

一方, 未婚の若年者同士のカップルでは, 避妊や性の健康リスク回避行動のありかたは, 既婚夫婦とは異なるようである。徐(Suh1997)によると, 18歳から25歳までの性交経験者男女では, 「コンドームを買い置きする」「避妊や性感染症のことで産婦人科や泌尿器科を受診する」などの行動に性差がみられ, コンドームや避妊フィルムの買い置き, 使い方の練習は男子に有意に多い行動であった。また, 女子は月経を記録し, 男子より有意にセックスした日を書き留めていた。

宗像(1996)も1994年実施の「思春期のパートナー関係についての調査」のなかで, コンドーム携帯についての項目を設けている。そこでは, 13~24歳の性交経験者のうち, 男子の57.1%がいつもあるいはたまにコンドームを携帯しているのに対し, 女子では73%が携帯することはないと答えており, 大きな性差が見受けられた。

ところで, 日本性教育協会実施の第4回「青少年の性行動」全国調査は, 性交経験のある大学生男女が必要なときに避妊できなかった理由として「実行しようと思わなかった」「相手に断られた」の他, 「避妊のことは考えつかなかった(大学生男子で54.5%)」「避妊を言い出せなかった(大学生女子で33.3%)」などを報告している(加藤1996)。性教育の現場でよく指摘にあがる, 男子の意識の欠如や女子の相手に依存的な姿勢を端的に表すとも受け取られる例であるが, この状況は, 性の健康リスク回避目標についての, 男子と女子との間の役割期待のズレとしても問題化できよう。性別役割分業の是非はさておき, 前述の徐の報告からは, 性の健康リスク回避目標について, 明確とはいえないにしろ, 男子は男子, 女子は女子で, 別個になんらかの対処行動をとっている可能性も示唆される。

そこで, 本研究では, 18歳から25歳の男女を対象に, 性器性交を伴う関係の開始期におけるパートナー間の性の健康リスク回避行動に関する役割期待・役割認知を測定し, 対象集団において, それら行動の遂行に対しどの程度の期待が振り向けられているのか, また, 特定の行動に対する期待が特定の性別に結

びついて性別役割化する傾向があるかどうかを検討することとした。

以上のような考え方のとおり、質問紙調査から得られたデータを、次の3つの観点から分析した。

1) どの程度の人が、ある行動を、相手あるいは自分に対し行うべきものとしての期待をもっているか。つまり、ある特定の行動に対する役割期待（相手に対し）・役割認知（自分に対し）がどのように分布しているのか（役割期待の分布）。

2) それらの行動に対する期待は、特定の性別に結びついているか（役割要求の帰属のさせ方）。

3) 男女間で、役割期待と役割認知は一致しているか（役割期待－役割認知齊合性）

なお、通常、質問紙調査を用いた研究での保健行動の分析単位は個人となるが、本研究では質問紙調査から得た個人データから実験的に男女のペア・データを構成し、男女の組（カップル）に単位をおく分析を試みた。

II 方 法

1. 調査対象

関東圏在住の18歳から25歳までの大学生、短大生、専門学校生男女とした。

2. 調査方法

授業時間を利用した無記名自記式質問紙による集団調査を実施した。調査対象者へは、調査を実施する前の週に調査協力を授業を通じてお願いしておき、その翌週に質問紙の配布・回収を行った。質問紙の配布時に、調査への参加・協力を望まない場合には白紙提出でもかまわない旨、伝えた。

質問紙には、のり付き封筒を添付した。質問紙の記入は、平均で約20分程度であった。調査期間は1997年6月から8月の2か月間である。回収された質問

仮想ペア・データを利用したHIV/AIDS、性感染症、望まない妊娠の予防行動における性差の検討紙から白紙回答を除いたあとの質問紙回収率は、95.1% (1,073/1,128) であった。

3. 自己および仮想パートナーへの役割期待と役割認知の測定と分析

性の健康リスクの回避をめぐる役割期待および役割認知の測定と分析は、次のような手順で行った。

① 質問項目および質問の形式（表1）

質問紙構成に先だって行われた個別および集団聞き取り調査の内容、先行研究、現在流通している健康教育パンフレットの内容を整理し、それらの資料に表れた様々な性の健康リスク回避行動を分類したところ、情報収集行動、話し合い行動、準備行動、受診行動の4つの枠組みを得た。この枠組みに沿って、典型的であると思われる行動を計8項目選択し、その行動の遂行に関する役割期待および役割認知についての質問を設定した。

「安全な性行動」の観点からみると、コンドーム使用などの保健行動の実行は、新パートナー状況においてもっとも重要である。そこで、回答者の調査時現在のパートナー関係とは関連のない仮想的な状況設定に基づく回答を得ることとした。質問紙中、性交経験者にあっては「新しい相手」ができたときのことを、性交未経験者にあっては初めての性交の相手を想定して回答するよう教示文を与えた。そして、この条件の下で、自己から交際相手への役割期待および自己の役割認知を、列挙する8行動の遂行を相手に期待する程度（役割期待）「全く期待しない」から「非常に期待する」までの5段階、自分も行うべきだと思う程度（役割認知）「全くそう思わない」から「強くそう思う」の5段階として回答してもらった。

② 仮想ペア・データの構成

次に、カップル間の役割期待・役割認知の違いを実験的に検討するために、Murstein(1967, 1970)を参考に、調査標本から仮想ペア・データを再構成した。

調査標本から男女各400名ずつを抽出して無作為にマッチさせ、個々の回答者

表1 設問形式

III 次に、エイズ・性感染症の予防や避妊、コンドーム使用について、あなたのご意見をお伺いします。

問3-1 下に、性の健康に関連したさまざまな行動が列挙されています。各々の行動について、あなたが、あたらしい相手と初めてセックスしようとするとき、相手に期待する程度について、お答えください。

また、あなたが、自分自身でも行うべきだと思う程度についてお答えください。

現在、セックスの相手がある方は、あたらしい相手ができた時のこと想像してお答えください。

現在、セックスの相手がない方で、以前に性交経験のある方は、次の相手ができた時ことを想像してお答えください。

性交経験のない方は、初めてのセックスを想定してお答えください。

同性としかセックスしない方は、7番以降のみをお答えくださってもかまいません。

(答え方) 「あなたが相手に期待する程度」と「自分もやるべきだと思う程度」の各々について、5段階で回答してください。

	相手に期待する程度			自分も行うべきだと思う程度		
	全くしない期待	どちらともいえない	非常に期待する	全く思わない	どちらともいえない	強く思う
01■避妊についての情報 をあつめる・知識を得る。	1 — 2 — 3 — 4 — 5			1 — 2 — 3 — 4 — 5		
02■あらかじめ避妊の方 法について考えておく。	1 — 2 — 3 — 4 — 5			1 — 2 — 3 — 4 — 5		

の実際の交際相手の有無や、性交経験の有無とは関係なく、400組の男女の仮想ペアを得た。この仮想ペア・データを利用して、ペア内や調査対象者個人内の変数や連関を観察した。

表2 調査対象者の属性 (n=800)

年齢構成	男子 (n=400)	女子 (n=400)
18歳	25.8 (103)	36.5 (146)
19歳	38.0 (152)	40.3 (161)
20歳	25.5 (102)	18.0 (72)
21歳	6.8 (27)	4.0 (16)
22-25歳	4.1 (16)	2.4 (4)
平均年齢	19.27ys/o	18.96ys/o
パートナー関係		
現在つきあっている人がいる	26.5 (104)	34.0 (136)
性交経験がある	56.9 (223)	38.3 (151)

* 数字はパーセント、かっこの中は度数

仮想ペア・データにおける年齢構成や性交経験者の比率は、表2のとおりである。

なお、本調査の性交経験者は、2名を除き、全員がここ1年間の性行為の相手は異性のみであったと回答していた。この回答結果より全回答者の性的指向性を代表させるには異論も残されようが、本論ではこれに依拠し、以後、本調査の回答者の性交相手は異性であるとの前提に立つこととする。つまり、二者関係にあって「相手に期待する」といった場合は、回答者からみて「相手」は異性であると仮定する。

③ 仮想ペア・データによる検討の有効性と限界

Murstein(1967, 1970)の研究では、婚約中の男女99組を調査対象とし、各々の回答者（男女計198名）に現実の相手－現実の自己および理想の相手－理想の自己の2通りについて、役割期待・役割認知を回答させ、そのデータを現実のカップルと仮想ペアの組合せの2通りで変数処理し、連関を検討するというものである。

現実ペアとの比較により、意識レベルと現実の行動との落差を検討することが可能であるが、本論では、「相手のある保健行動」についての基礎的検討として、まずは分業的な役割期待に関する一般的な意識の把握が必要と観下、仮想ペアによる意識レベルの分析に留めることとした。よって、意識の現実の行動に及ぼす影響についての検討は、本論の範囲には含まれない。

一方、データのランダム・マッチによって構成された仮想ペアを使用するという分析方法に由来する限界がある。

まず、本研究では、18歳から25歳の学生の集合調査によって得たサンプルから仮想ペアを構成している。よって、結果の解釈にあたっては、学生は同年代の学生同士の中から交際相手を選ぶと前提することになる。

次に、ランダム・マッチによりペアを決定することは、現実のメイティング・セレクションの過程で吟味され、カップルの個性・個別性をもたらすところの、パーソナリティ、価値、生育環境の類似性などの要素はひとまず据え置き、対象者を同質的にとらえることである。

本論におけるカップル間の役割期待－認知齊合性についての結果の解釈は、以上の前提を踏まえたうえでの、学生集団の役割意識に関する仮説的検討となる。

④ 役割期待変数および役割認知変数の基礎集計

5段階法で得られた各項目の役割期待変数、役割認知変数の値を、「非常に期待する」「期待する」とそれ以外、「思う」「強く思う」とそれ以外の2値に再カテゴリー化し、各変数と性別の 2×2 分割表を性交経験の有無ごとに作成した。この3重クロス表に対し、性交経験の有無を統制変数としたマンテル-ヘンツエル法によるカイ自乗検定を行い、第3変数（性交経験の有無）の影響を取り除いたあとの回答傾向が性別によって異なるかどうかを調べた。有意水準は5%以下とした。

また、役割期待および役割認知についての各項目の選択肢に1から5点を与えて得点化し、「非常に期待する」に5点、「全く期待しない」に1点、自分で

仮想ペア・データを利用したHIV/AIDS, 性感染症, 望まない妊娠の予防行動における性差の検討もするべきだと「強く思う」に5点, 「全く思わない」に1点), 性別ごとに平均点を算出した。2群間の平均点の差の有意検定は, 仮想ペア・データの男子データと女子データを対応のあるデータとしてみなし, ノンパラメトリック法の一つであるウィルコクスン検定(対応データ)によって行った。

⑤ 役割遂行義務の帰属のさせ方についての検討

次に, 各回答者内で役割期待スコアから役割認知スコアを差し引いて新たな変数をつくり, それによって, ある特定の行動の遂行について, 相手方と自己のどちらにより大きな期待がもたれているかを表す変数とした。

役割期待スコアから役割認知スコアを差し引いた値は-4から+4までの値をとるが, マイナスの符号をもつときは相手への役割期待より役割認知が大きいとして「より自分」型, ゼロのときは「自他に同程度」型, プラスの値となったときは相手への期待がより大きい「より相手」型とカテゴリー化し, 男女別にクロス集計した。また, 性別により分布に違いがあるかどうかを, マンテル-ヘンツェルの拡張検定(2×k分割表)を適用し, 性交経験の有無による影響を統制して調べた。

⑥ カップル間の期待-認知齊合性の評価

各項目につき, ペアの片方から相手方への役割期待変数から, 相手方の役割認知変数を差し引いて得た新たな変数によって, 男子および女子の役割行動についての性別間役割期待-役割認知齊合性を評価した。

まず, 女子から相手への役割期待スコアから男子による役割認知スコアを, 男子から相手への役割期待スコアから女子による役割認知スコアをペアごとにマッチさせて差し引き, 前者を男子の, 後者を女子の役割期待-認知齊合性の評価の資料とした。

新しく得られた変数は, -4から+4までの値をとるが, 値がマイナスであった場合, ペアのどちらかの役割認知が相手方の役割期待を上回る「認知優位型」, ゼロであった場合, 役割期待と役割認知がペア間で一致する「一致型」,

プラスの数値であった場合、役割期待が役割認知を上回る「期待優位型」の3つに振り分け、分布を観察した。

また、値の絶対値を平均して、ペア間の役割についての認識の差を評価した。

III 結 果

1. 役割期待・役割認知の分布

表3は、相手に「非常に期待する」「期待する」、自分もやるべきだと「思う」「強く思う」を1カテゴリーにまとめた回答者比率（肯定率）を性別・性交経験の有無別に表したものである。

「避妊についての情報をあつめる・知識を得る」「あらかじめ避妊の方法について考えておく」などの情報収集行動では、役割期待変数、役割認知変数とも肯定率が6割以上となり、ことに女子では90%前後に上るものもあった。一方、「最初のセックスをする前に、避妊についての話し合いを持ちかける」などの話し合い行動では、10~50%前後のレベルにとどまった。

性交経験の有無を統制変数としたカイ自乗検定（マンテル-ヘンツェル法）の結果は、1項目（「検査や診察を受けてエイズや性感染症の有無を確かめておく」）を除き有意となり、性別による回答傾向の違いが示された。

また、全体的にみて、役割期待変数・役割認知変数ともに女子の肯定率が男子のそれを上回る傾向が観察されるが、項目「コンドームを用意する」では、男子の役割認知肯定率が女子のそれを上回り、男女の逆転がみられた。

2. 役割要求の帰属の型

回答者個人内で役割認知と役割期待の差をとり、その値から「より自分」型、「自他に同程度」型、「より相手」型にカテゴリー化したものの相対度数を表4に記載した。

「コンドームを用意する」で男女ともに「自他に同程度」型が50%程度であ

仮想ペア・データを利用したHIV/AIDS, 性感染症, 望まない妊娠の予防行動における性差の検討

表3 性別／性交経験の有無別にみた役割期待肯定率および役割認知肯定率

	男 性交経験者 n=223	子 性交未経験者 n=169	女 性交経験者 n=151	子 性交未経験者 n=243	χ^2 値
●情報収集行動					
1 ■避妊についての情報をあつめる・知識を得る。					
相手に期待する（役割期待）	67.6	70.5	90.0	86.7	39.7***
自分もやるべきだ（役割認知）	74.0	77.4	92.1	91.7	34.9***
2 ■性感染症やエイズについての情報をあつめる・知識を得る。					
相手に期待する（役割期待）	57.7	70.5	76.2	76.3	12.1***
自分もやるべきだ（役割認知）	26.0	76.2	79.5	79.7	9.6**
3 ■あらかじめ避妊の方法について考えておく。					
相手に期待する（役割期待）	68.3	75.3	92.0	94.6	58.7***
自分もやるべきだ（役割認知）	78.7	81.5	92.7	93.4	25.8***
●話し合い行動					
4 ■最初のセックスをする前に、避妊についての話し合いを持ちかける。					
相手に期待する（役割期待）	20.7	31.3	58.0	55.8	71.9***
自分もやるべきだ（役割認知）	25.3	29.8	60.3	52.7	62.5***
5 ■最初のセックスをする前に、エイズや性感染症予防についての話し合いを持ちかける。					
相手に期待する（役割期待）	13.1	25.9	28.5	33.9	12.9***
自分もやるべきだ（役割認知）	12.2	23.8	25.8	33.7	13.7***
6 ■過去の性関係について話す。					
相手に期待する（役割期待）	21.6	15.1	42.4	28.9	27.7***
自分もやるべきだ（役割認知）	17.9	19.2	33.1	22.7	8.4**
●用意・携帯行動					
7 ■コンドームを用意する。					
相手に期待する（役割期待）	54.5	61.4	95.4	96.3	150.5***
自分もやるべきだ（役割認知）	85.7	85.7	60.0	64.7	51.9***
●受診行動					
8 ■検査や診察を受けてエイズや性感染症の有無を確かめておく。					
相手に期待する（役割期待）	29.7	39.5	33.1	44.6	1.3n.s.
自分もやるべきだ（役割認知）	22.2	34.7	25.8	39.1	1.3n.s.

- 1) 役割期待では相手に「非常に期待する」「期待する」を、役割認知では自分もやるべきだと「強く思う」「思う」を1つのカテゴリーにまとめ、その比率を性別・性交経験の有無別に表に記載した。
- 2) 各項目の回答傾向が性別によって異なるかどうかを調べるために、性交経験の有無を統制変数として、マンテル-ヘンツエル法によって χ^2 自乗値を計算した。（*: p.<0.05, **: p.<0.01, ***: p.<0.001）

表4 回答者個人内における役割要求の帰属の型

	役割要求の帰属の型			性別－項目間	各項目の役割自認 ペア間の乖離幅平均
	「より自分」型 (%)	「自他に同程度」型 (%)	「より相手」型 (%)	Mantel-Haenszel 法 拡張検定	
●情報収集行動					
1 ■避妊についての情報をあつめる・知識を得る。					
男子	19.0	71.5	9.5	z=0.48n.s.	0.91±0.98
女子	18.3	75.5	6.3		
2 ■性感染症やエイズについての情報をあつめる・知識を得る。					
男子	10.8	85.0	4.3	z=-0.35n.s.	1.09±1.04
女子	8.8	89.0	2.3		
3 ■あらかじめ避妊の方法について考えておく。					
男子	18.3	74.0	7.8	z=-3.00**	0.84±1.01
女子	7.8	84.5	7.8		
●話し合い行動					
4 ■最初のセックスをする前に、避妊についての話し合いを持ちかける。					
男子	13.5	76.0	10.5	z=-1.18n.s.	1.84±1.26
女子	11.0	75.8	13.3		
5 ■最初のセックスをする前に、エイズや性感染症予防についての話し合いを持ちかける。					
男子	7.0	84.0	9.0	z=0.12n.s.	1.32±1.10
女子	5.5	87.5	7.0		
6 ■過去の性関係について話す。					
男子	7.5	84.0	8.5	z=-3.48n.s.	1.31±1.13
女子	4.3	80.3	15.5		
●用意・携帯行動					
7 ■コンドームを用意する。					
男子	37.5	56.8	5.8	z=-15.45***	1.19±1.16
女子	2.3	50.3	47.5		
●受診行動					
8 ■検査や診察を受けてエイズや性感染症の有無を確かめておく。					
男子	6.0	78.0	15.3	z=0.45n.s.	1.37±1.17
女子	6.0	80.8	13.3		

仮想ペア・データを利用したHIV/AIDS、性感染症、望まない妊娠の予防行動における性差の検討のを除き、他の項目すべてで男女とも、「自他に同程度」型が7～8割を占めている。また、マンテル-ヘンツェル法による拡張検定（ 2×1 分割表）により、性交経験の有無を統制変数として性別と各変数との関連を調べたところ、「あらかじめ避妊の方法について考えておく」「コンドームを用意する」の2項目を除き、分布に性別による有意な違いはなかった。

「あらかじめ避妊の方法について考えておく」では、男子に「より自分」型が18.3%で、女子の7.8%と比較して有意に多かった（ $z = 4.42$, $p < 0.001$ ）。また、「コンドームを用意する」では、男子の「より自分」型（37.5%）と女子の「より相手」型（47.5%）のセル調整標準化残差がそれぞれ+12.5, +13.4となり、ほぼ対称形の分布となった。「同程度」型を挟んで、男子では「より自分」型、女子では「より相手」型が対置する分布となり、役割期待・役割認知の分布で指摘した男女相補性の配置が、ここでも再現された。

一方、性別による役割認知の程度の差を調べるために、ペア間の役割認知変数の差をとり、その平均幅を算出した。各項目の役割認知ペア間乖離幅平均は0.84から1.84となった。項目「最初のセックスをする前に、避妊についての話し合いを持ちかける」では役割認知のペア間乖離幅平均は1.84となり、役割帰属の型は男女ともに「自他に同程度」型が約75%でほぼ同じであったが、平均で2階級程度の違いとなった。

3. カップル間の期待－認知齊合性の評価

回答者女子の役割期待変数と回答者男子による役割認知変数の関連から男子の、回答者男子の役割期待変数と回答者女子による役割認知変数の関連から女子の役割行動についての役割期待－役割認知齊合性を評価した（表5、表6）。

男子の役割行動では、ウィルコクスン検定の結果、すべての項目で、女子の役割期待と男子の役割認知の平均得点に有意な違いがあった。また、ペア間の乖離幅平均は、0.64から1.46となった。

ペアの型では、女子期待優位型が話し合い行動の3項目で50%前後、情報収集行動で40%近くを占めた。男女一致型は、「コンドームを用意する」（64.3

表5 仮想ペアにおける役割期待と役割認知の乖離(男子の役割行動としてみた場合)
(n=400)

	性別に集計した 平均得点 (範囲: 1-5)	Wilcoxon 検定 (対応データ) 結 果	ペア間の 乖離幅平均 (範囲: 0-4)	ペアの型					
				認知優位型 一致型 %	期待優位型 一致型 %	期待優位型 一致型 %			
●情報収集行動									
1 ■避妊についての情報をあつめる・知識を得る。									
女子からの役割期待-a	4.5	$z = -4.08^{***}$	0.93	22.7	39.1	38.1			
男子による役割認知-b	4.2	(a ≠ b)							
2 ■性感染症やエイズについての情報をあつめる・知識を得る。									
女子からの役割期待-a	4.1	$z = -2.31^*$	1.11	29.4	32.9	37.7			
男子による役割認知-b	3.9	(a ≠ b)							
3 ■あらかじめ避妊の方法について考えておく。									
女子からの役割期待-a	4.6	$z = -5.33^{***}$	0.82	15.5	46.4	38.1			
男子による役割認知-b	4.3	(a ≠ b)							
●話し合い行動									
4 ■最初のセックスをする前に、避妊についての話し合いを持ちかける。									
女子からの役割期待-a	3.8	$z = -8.25^{***}$	1.46	19.6	23.7	56.7			
男子による役割認知-b	3.0	(a ≠ b)							
5 ■最初のセックスをする前に、エイズや性感染症予防についての話し合いを持ちかける。									
女子からの役割期待-a	3.2	$z = -5.56^{***}$	1.37	24.7	27.3	48.0			
男子による役割認知-b	2.7	(a ≠ b)							
6 ■過去の性関係について話す。									
女子からの役割期待-a	3.0	$z = -5.09^{***}$	1.37	25.4	27.7	46.9			
男子による役割認知-b	2.6	(a ≠ b)							
●用意・携帯行動									
7 ■コンドームを用意する。									
女子からの役割期待-a	4.8	$z = -5.46^{***}$	0.64	9.3	64.3	26.4			
男子による役割認知-b	4.5	(a ≠ b)							
●受診行動									
8 ■検査や診察を受けてエイズや性感染症の有無を確かめておく。									
女子からの役割期待-a	3.3	$z = -4.37^{***}$	1.39	28.6	27.3	44.1			
男子による役割認知-b	2.9	(a ≠ b)							

仮想ペア・データを利用したHIV/AIDS、性感染症、望まない妊娠の予防行動における性差の検討

表6 仮想ペアにおける役割期待と役割認知の乖離(女子の役割行動としてみた場合)
(n=400)

性別に集計した 平均得点 (範囲:1-5)	Wilcoxon 検定 (対応データ) 結 果	ペア間の 乖離幅平均 (範囲:0-4)	ペアの型				
			認知優位型 %	一致型 %	期待優位型 %		
●情報収集行動							
1 ■避妊についての情報をあつめる・知識を得る。							
男子からの役割期待-a	4.0	$z = -8.12^{***}$	0.99	48.4	38.2		
女子による役割認知-b	4.6	(a ≠ b)			13.4		
2 ■性感染症やエイズについての情報をあつめる・知識を得る。							
男子からの役割期待-a	3.9	$z = -4.32^{***}$	1.17	43.9	30.1		
女子による役割認知-b	4.2	(a ≠ b)			26.0		
3 ■あらかじめ避妊の方法について考えておく。							
男子からの役割期待-a	4.1	$z = -7.36^{***}$	0.94	42.1	44.2		
女子による役割認知-b	4.6	(a ≠ b)			13.7		
●話し合い行動							
4 ■最初のセックスをする前に、避妊についての話し合いを持ちかける。							
男子からの役割期待-a	2.9	$z = -9.47^{***}$	1.43	57.5	23.7		
女子による役割認知-b	3.8	(a ≠ b)			18.8		
5 ■最初のセックスをする前に、エイズや性感染症予防についての話し合いを持ちかける。							
男子からの役割期待-a	2.7	$z = -5.47^{***}$	1.29	47.2	29.0		
女子による役割認知-b	3.2	(a ≠ b)			23.7		
6 ■過去の性関係について話す。							
男子からの役割期待-a	3.0	$z = -5.09^{***}$	1.36	39.7	28.9		
女子による役割認知-b	2.6	(a ≠ b)			31.4		
●用意・携帯行動							
7 ■コンドームを用意する。							
男子からの役割期待-a	3.7	$z = -2.28^*$	1.43	39.2	28.8		
女子による役割認知-b	3.9	(a ≠ b)			32.1		
●受診行動							
8 ■検査や診察を受けてエイズや性感染症の有無を確かめておく。							
男子からの役割期待-a	3.1	$z = -1.14^{n.s.}$	1.40	38.5	26.4		
女子による役割認知-b	3.2	(a ≠ b)			35.0		

%), 「あらかじめ避妊の方法について考えておく」(46.4%)などで最頻カテゴリーとなった。

女子の役割行動では、1項目を除いたすべての項目で、男子からの役割期待と女子の役割認知の平均得点が有意となった。また、ペア間の乖離幅平均は、0.94から1.43であり、どの項目でも平均でおよそ1階級以上の乖離があることとなった。

ペアの型では、女子認知型が40から60%となり、ほとんどの項目で最頻カテゴリーとなったほか、一致型では「あらかじめ避妊の方法を考えておく」(44.2%)がもっとも高かった。

項目「コンドームを用意する」では、女子認知優位39.2%，一致型28.8%，男子期待優位32.1%で、頻度はほぼ3分していた ($\chi^2(2)=1.70$, n. s.)。

IV 考 察

1. 期待と認知の分布および役割要求の帰属の型

本研究では、仮想パートナーとの初回性交という条件の設定により、新パートナー状況における性の健康リスク回避行動について18歳から25歳までの男女がもつ、一般的な役割期待・役割認知を測定した。そして、回答者をランダムにマッチさせ400組の男女のペアを実験的に構成し、性別による役割観の違いを検討した。

役割期待と役割認知の分布の全体的な傾向では、項目「コンドームを用意する」を除き、列挙した行動のすべてで、役割期待・役割認知とともに女子の肯定率が男子のそれを上回っていた。女子では、肯定率が90%を超える項目も少なくなく、女子は、性の健康リスク回避行動に関し、高い役割要求水準をもっていることがデータから示された。ことに、避妊に関する項目では女子の肯定率が高くなる傾向があり、主として望まない妊娠の回避を中心とした高い健康ニーズによって、リスク回避行動がより強く動機づけられていることを反映し

仮想ペア・データを利用したHIV/AIDS, 性感染症, 望まない妊娠の予防行動における性差の検討ていると考えられた。

次に, 役割期待変数と役割認知変数の差を回答者内でとることによって, 役割要求の帰属の型について調べたところ, いずれの行動でも3カテゴリーのうち「自他に同程度」型がもっとも多く, 2項目を除き分布に性別による違いはなかった。つまり, 特定の項目を除き, 各々が抱く理念のレベルでは, 男女とも, 特定の性に傾斜してある役割を帰属させる傾向をもたなかつた。

しかしながら, 各項目の役割認知をペア同士で比較し, その乖離幅の平均をとったところ, 項目によってはその差がほぼ2階級に相当していた。すでに指摘したように, 役割要求水準は女子に高い傾向があり, 男女とも「自他に同程度」に期待しているとはいえる, 期待の強さは男女で決して同じではないことが示された。

つまり, カップルの性の健康を守ることに関し, 男女平等的な意識がもたれているが, それは, 性別で二水準化されている。男女間の異なる意識レベルは, 個々のカップルにおける期待-認知間葛藤の生じやすさを内包するものであろう。

個別の項目で特徴的なことは, 避妊の準備に関する項目での肯定率の高さ, 話し合い行動での肯定率の低さ, および, 項目「コンドームを用意する」での性別相補的な回答分布である。

女子では, 「避妊について情報をあつめる・知識を得る」「避妊法をあらかじめ考えておく」では役割期待・役割認知とも9割以上の肯定率, 「コンドームを用意する」では相手への役割期待が95%を数えた。これらの数値は, 女子の絶対多数が, 親密な関係を維持するのにこれらの行動をとることが必須であると考えている証左として受け止められる。

逆に, 性感染症・エイズが対象リスクである場合には, 肯定率がいく分低下する傾向が見受けられた。この結果は, むろん, 性感染症やエイズへの感染リスクの認知が全般的に低い日本の現況と関連しているよう。

次に, 話し合い行動では肯定率が低くなる傾向があった。男子では「避妊具を用意する」「コンドームを用意する」で役割認知が8割以上を数える一方で,

「最初のセックスをする前に、避妊についての話し合いを持ちかける」では2～3割程度であった。女子でも、情報収集行動では期待・認知とも8～9割のレベルを保っているにもかかわらず、話し合い行動では2割から6割のレベルにおさまっていたにすぎない。役割要求の帰属の型をみると、男女とも7～8割が「同程度型」であったが、認知の乖離幅平均はどれも1階級以上あり、男女で意識の差が大きいことがわかる。

つまり、異性間カップルでは、性の健康リクス回避目標の達成にあたって、パートナー相互の話し合いによる意思決定や合意の達成より、明確な話し合いなしに互いに独立的に準備行動を進めていくことが選好されやすく、ことに、男子にその傾向が大きいのではと推察された。

性教育の実践家・専門家は、自己決定やパートナー・コミュニケーションを促進するようなライフ・スキル的教育を提唱している（東京都衛生局1993、加藤・近藤1993、村田・宗像・田島1996）。それらは、女子の知識や自覚を高めるだけでは、男女の非対称な力関係を調停しながら女性の意思を十分に反映させるだけの効果は得られないという過去の教育実践に対する反省を含んでいる（東1997、KIT/SAfAIDS/WHO1995）。本研究の調査対象についてみてもわかるように、女子の性の健康に関する意識は高いとはいえ、こと避妊という問題については、すでに女性の側は飽和状態に達しているように思われる。性の健康に関する教育にコミュニケーション教育を導入するならば、上のデータが示すとおり、女子では男子に先行してレディネスが十分高まっていると思われる。よって、この意識上の非対称を解消し、十分な教育効果を得るには、いかに男子に働きかけるか、いかに「男子の問題」としていくかが鍵となってくるのではないか。

「コンドームを用意する」という項目では、男子で役割認知肯定率が、女子で役割期待肯定率が高く、期待と認知が男女で相補的に分布していた。相補性の傾向は、同項目での役割要求の帰属の型や、男子の役割行動についての期待－認知齊合性で、よりはっきりとしたものとなった。コンドームに関連した保健行動（携帯、買い置きなど）の頻度などに明確な性差があることは、先に触れ

仮想ペア・データを利用したHIV/AIDS, 性感染症, 望まない妊娠の予防行動における性差の検討た先行研究によっても明らかであるが, ここでは, 役割意識の次元で性別相補性が認められた。

2. 期待－認知齊合性

仮想ペア間で性別に交差させて役割期待・役割認知の差をとり, ペアの型およびペア間の乖離幅平均より役割期待－役割認知齊合性を検討した。その結果, 男子の役割行動でも, 女子の役割行動でも, 特定の項目を除き, 男女一致型は30%前後に集まっていた。前者では女子期待優位型の組合せが, 後者では女子認知優位型の組合せが, おおむね4割水準で出現した。また, ペア間の期待－認知乖離幅は, 男子では特定の項目を除き1階級前後, 女子の役割行動では, どの項目でもおよそ1階級以上あり, 役割期待と役割認知の間に若干の不齊合がみられた。上述の役割要求の帰属の型から明らかになったように, 本研究の調査項目では, 特定の行動を特定の性別に結びつけて期待する考え方方は「コンドームを用意する」という項目にしかみられず, それ以外の項目でみられる不齊合は, 主として役割要求水準の性差によって生じるものであろう。

「コンドームを用意する」では, ペア間の乖離幅平均がもっとも狭く, かつペアの型でも男女一致型が6割を占め, 期待－認知齊合性がもっとも高いと考えられた。逆に, 女子の役割行動として同じ項目をみた場合は, 乖離幅平均は1.43と1階級半の開き, ペアの型では女子認知優位型, 一致型, 男子期待優位型でほぼ3分していた。このことは, 男子にとっての「コンドームを用意する」という行動は, ある程度, 男子の役割として安定しているのに対し, 女子がその行動をとることに関しては, 多様な態度が存在していると考えられた。

男女間の役割期待・役割認知に齊合性がみられないことは, 性の健康リスクの回避という行動目標をめぐり, 二者間に葛藤が現出しやすいことを根拠づけよう。たとえば, 相手が期待する役割を遂行しないことによって相手から不満を表明されたり, 逆に, 相手が期待しない行動をとってネガティブな役割評定を受ける(例: コンドームを用意することによって, 性的に過剰な期待をもっていると誤解される, 「出すぎた人」との印象をもたれる)ことを体験する。こ

れらは、親密な二者関係における性の健康リスク回避行動の位置づけそのものが、男女間で相違するために生じやすい齟齬であると思われる。

3. 「相手のある保健行動」

性の健康リスクを回避する行動のなかには、セックスを避ける、性行為の相手を1人に限定するなど、個人内で行為が完結するものと、コンドームを使用する、避妊法を選択する／実践するなど、性行為の相手との協力関係がないとその実行が不可能なもの2種類が含まれる。後者のタイプの保健行動は、2人の人間の間で生起する一種の対人的行動であるといえ、機会飲酒時にその場に居合わせた者相互に適量飲酒を守る行動などと同様、「相手のある保健行動」ととらえることができる。

「相手のある保健行動」は、他の対人行動と同じく、行為者の地位・身分に応じた役割規範、場面の構成メンバーの勢力関係、パーソナリティや認知の様式など、その行動を起こそうとする場面の対人相互作用を規定する様々な要因に影響される。これらの要因のうち、役割規範などの社会規範は、直面する状況においてふさわしいとされる行動の基準や、相手の出方を予測するための予備知識を行為者に与えることにより、未知の状況での相互作用をも可能にするという働きをもつ。

たとえば、初めての性交や、新しい相手との最初の性交など、関係性の新局面であることも含めて未知の状況であると考えられるような場面では、社会化の過程で学習されている一般的な性別役割規範（例：「こういう場合、男なら……」）や、親密な間柄に適用される交際規範（例：「エチケットとして……するべき」）、愛情規範（例：「相手を大切にしているのなら……なければならぬ」）などが、その状況において、どのような行動をとることが一般に期待されているのかについてのおおまかな情報を、行為者に提供する。

行為者は、相手にも同じ内容の規範が共有されていることを前提に、社会規範が与える情報を参照しつつ、相手との相互作用から直接得た様々な情報を統合しながら、自分の次の行為を決める。こうした繰り返しによって、相互に適

仮想ペア・データを利用したHIV/AIDS、性感染症、望まない妊娠の予防行動における性差の検討応的な行動の学習がすすめられ、関係初期の規範をベースとした行動様式に細かな修正が加わって、二者に固有の行動パターンが安定化していく。

性の健康回避行動の遂行も、以上のような過程において二者の関係維持に必要な行為体系のどこかに位置づけられ、その実行が習慣化したり、あるいは逆に、重要度の低い行動と位置づけられて実行されなくなったりすると考えられる。

本研究では、新パートナー状況という条件下での回答を調査対象に求めた。本研究での測定方法では、いわゆる社会的に望ましい回答が出現しやすいと思われ、その結果には、多かれ少なかれ、各人が思い描く理想の恋人関係が反映していると考えられる。つまりは、上でいう様々な役割規範が統合されて形成されるところの「親密な間柄の対人規範」であり、関係のごく初期に参照されやすい情報だと思われる。

最後に、上に述べたように、「相手のある保健行動」は、自己と相手との関係性によってその位置づけが変化する。「安全な性行動」や性の健康回避リスク行動を集団的に評価するにあたっては、関係のどの段階における行為であるかについての十分な配慮が必要であると思われる。

VI 結 語

18歳から25歳までの青年層を対象として、新パートナー状況での性の健康リスク回避行動について質問紙によって調査した。得られたデータから男女をランダムに組み合わせて400組の仮想ペア・データを構成し、男女間の役割期待－役割認知分布、期待－認知齊合性について仮説的に検討した。その結果、以下のような事柄が明らかになった。

1) 列挙した行動の遂行についての役割期待および役割認知肯定率に、大きな性差があった。女子において避妊に関する項目を中心に役割期待および役割認知肯定率が高く、女子は、性の健康リスクを回避する行動を、親密な二者関係を維持するのに必要な行動として高く位置づけていることが示唆された。

2) 項目「コンドームを用意する」以外の項目では男女ともに役割分業的な

期待は見受けられず、性の健康を守る行動は男女同程度に実践すべきだと考えられていると推察された。しかし、男女の役割要求水準の違いから、その平等意識は性別で二水準化していると考えられた。

3) 性別分業化の傾向がみられたのは項目「コンドームを用意する」で、性別相補的に役割期待・役割認知がもたれていた。また、男子の役割行動としてみた場合の仮想ペア期待－認知の乖離幅平均はもっとも狭く、役割－期待齊合性のある行動項目であると思われた。

4) 女子の役割行動としてみた場合の「コンドームを用意する」では、仮想ペア間期待－認知乖離幅平均はもっとも広く、ペアの分布も「女子認知優位」型、「男女一致」型、「男子期待優位」型がほぼ3分しており、その位置づけがあいまいである行動であると思われた。

5) 「コンドームを用意する」以外の項目での期待－認知不齊合は、主として、女子が男子より高い役割要求をもっていることに起因している。

性の健康リスクを回避するための保健行動は一種の「相手のある保健行動」であり、新パートナー状況下での規範をベースとした行動様式は、関係の進展とともに役割調整を経て変化し、カップルごとに個性化しつつ安定化していく。

参考・引用文献

- 1) 大坊郁夫, 奥田秀宇 (1996) 親密な対人関係の科学, 誠信書房.
- 2) 加藤秀一 (1996) 現代青少年の性意識を通して見るジェンダー・ギャップ, 日本=性研究会議会報, 8(1), 56-63.
- 3) 加藤潤子, 近藤真庸 (1993) エイズと“対話”する－“エイズ時代”を生きるふたりの素敵なコミュニケーションのために, 体育科教育93・2 別冊エイズと教育, 135-139.
- 4) コールマン サミュエル (1985) 日本におけるコンドーム使用の文化的背景, 社団法人日本家族計画協会.
- 5) 上子武次 (1979) 家族役割の研究, ミネルヴァ書房.
- 6) 島内憲夫 (1977) 家族周期と健康管理, 森岡清美 (編著), 現代家族のライフサイクル, 培風館.

- 仮想ペア・データを利用したHIV/AIDS, 性感染症, 望まない妊娠の予防行動における性差の検討
- 7) 高村寿子 (1994) ピア・カウンセリングの進め方, 家族計画便覧, 149-164, 社団法人日本家族計画協会.
- 8) 東京都衛生局 (1993) HIV/AIDS 教育・相談マニュアル, 66-74.
- 9) 中村雅彦 (1991) 大学生の異性関係における愛情と関係評価の規定因に関する研究, 実験社会心理学研究, 31(2), 132-146.
- 10) 東優子 (1997) 女性の reproductive goal 達成に関する考察, 厚生省心身障害研究「生涯を通じた女性の健康づくりに関する研究」平成 8 年度報告書, 123-129.
- 松井豊 (1990) 青年の恋愛行動の構造, 心理学評論, 33(3), 355-370.
- 11) 宗像恒次 (1996) 青少年のエイズとセックス, 日本評論社.
- 12) 村田務, 宗像恒次, 田島和雄 (1996) エイズ教育の行動科学的アプローチ, 青少年のエイズとセックス～自立と共生のための性教育に向けて, 111-134, 日本評論社.
- 13) 森岡清美, 望月嵩 (1997) 家族の役割構造, 新しい家族社会学四訂版, 89-122, 培風館.
- 14) Dixon-Mueller, R. (1993) : The sexuality connection in reproductive health, Studies in Family Planning, 24(5) : 269-282.
- 15) Gilllies, P. (1999) : HIV/AIDS 予防における社会・行動科学の貢献, エイズ・パンデミック～世界的流行の構造と予防戦略, 109-130. 財団法人日本学会事務センター.
- 16) KIT, SAfAIDS, & World Health Organization(1995) : Facing the challenges of HIV/AIDS/STDs-a gender-based response, Royal Tropical Institute (KIT)
- 17) Murstein, B. I. (1970) Stimulus-value-role-A theory of marital choice, Journal of Marriage and the Family, 32, 465-481.
- 18) Murstein, B. I. (1967) Empirical tests of role, complementary needs, and homogamy theories of marital choice, Journal of Marriage and the Family, 29, 689-696.
- 19) Sacco, W. P., Rickman, R. L., Thompson, K. Levine, B. and Reed, D. I. (1993) Gender differences in AIDS-relevant condom attitudes and condom use, AIDS Education and Prevention, 5(4), 311-326.
- 20) Suh, Sookja(1977) Sexual health behavior and condom use in Japanese college students, (eds.) Munakata, T., Inaoka, F. & Suwa, S., Crisis Behavior Toward Growth & Solidarity : Proceedings of The Third International Conference of Health Behavioral Science, 34-37, Tokyo, Japan.